

2002年度（平成14年度）第2回常務理事会記録

日時：

2002年（平成14年）3月20日（水）13:00—17:00

場所：

東京大学医学部2号館（本館）南側地下カンファランスルーム

出席者：

廣川信隆（理事長）、猪口哲夫、河田光博、高田邦昭、山科正平、（以上常務理事）

依藤 宏（幹事）、小森雄一郎（学会事務センター）

欠席者：

なし

I. 会議記録の確認

2002年度（平成14年度）第1回常務理事会記録（案）が承認された。

II. 報告事項

1. 庶務報告 A、Bは廣川理事長、C～G）は猪口庶務担当理事よりの報告）

A. 日本医学会総会出席報告

次々期の医学会総会が大阪で開催されることに決定したこと、及び廣川理事長が日本医学会分科会「基礎医学」の幹事に指名されたことが報告された。

B. 第16回国際解剖学会について

日本学術会議担当者によるヒアリングが行なわれ、第7部推薦中の1位に挙げられることとなった。

C. 会員移動報告（正会員：2,543名 2002年（平成14年）1月31日現在）

■ 2002年（平成14年）1月分

i. 入会者：正会員2名、学生6名

ii. 退会者：正会員37名、

D. 教授就任による学術評議員就任者

■ 青山裕彦氏（広島大学医学部解剖学第1講座 就任日2001年（平成13年）10月1日付）

E. 学会に届けられた文書等

i. 通知

a. 文部科学省より

「科学技術振興調整費による業務の実施要綱の改定等について」（通知）

b. 日本医学会より

「日本医学会100周年記念式典ならびにシンポジウムの開催について」（ご案内）

c. 国立情報学研究所より

「学会発表データベースに係る覚書の廃止」, 「学会発表データベースの取扱いに係る申合せ」

d. (財) 風戸研究奨励会より

「平成13年度 風戸研究奨励金被贈呈者」について

e. 国際生物学賞委員会事務局より

「第17回国際生物学賞 記録」

ii. 書籍、定期通信 他

iii. 会告掲載、推薦及び出席依頼等

a. (財) 材料科学技術振興財団より

「第2回(2002年)財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞」候補者推薦のお願い

締切: 2002年4月末日

b. (財) 藤原科学財団より「平成15年度 藤原セミナー」募集要項

※上記2件については、学会HPに募集記事を掲載することとした。尚、「解剖学雑誌」の和洋分離刊行に伴い、各種お知らせを掲載する頁数に制限があるため、今後各賞の公募及び会告掲載等については、基本的にHPに掲載することが決定された。

F. 会員名簿作成委員会報告

i. 「解剖学雑誌」への綴込み原稿について

今回の会員名簿は、有料頒布、またCD-ROM版を制作する可能性もある等、従来の刊行形態とは異なる部分があることに鑑み、あらかじめ「解剖学雑誌」誌上にて会員各位に周知する必要がある。この“お知らせ”原稿につき、猪口庶務理事より素案が提案され、一部事務的な部分の修正がなされた上、承認された。

ii. CD-ROM版の制作については、ある程度の検索機能をもったものを、一定数の希望（見込みは300枚）があった場合のみ制作することが再確認された。併せて会員名簿のオンライン化の問題（おもにセキュリティの問題）も同委員会にて検討中であることが報告された。

iii. その他、名簿データの調査方法に関する検討経過について、前回（1998年）制作時よりも前倒しで作業を進める予定である旨、説明された。

G. 解剖学用語について

清木解剖学用語委員長より、「解剖学用語—日本語版」の最終案が提出され、その公開方法について審議がなされた。財政上の都合から、当面はweb上での公開を基本路線として検討していくことが確認された。また、冊子形式での刊行については、各種刊行補助、助成金に応募をすることも検討してはどうかとの意見が出された。

2. 編集報告（高田編集担当理事）

A. 「ASI」及び「解剖学雑誌」刊行報告

「ASI」創刊号(77-1)は、3月末刊行、4月上旬会員宛発送というスケジュールで作業が進んでいることが報告された。また、既に刊行済みの「解剖学雑誌」(77巻1号)について、頁数が少ないので編集が難しいこと、また現在原稿数が不足していることが報告され、各種特集を組むなどして対応してはどうか、等の意見が出された。関連して「編集委員会」と「ASI editor」との関係についても議論がなされ、「編集委員会」内部で、英文・和文担当の担当分けをしてはどうか、また、和文誌の頁数との関係で、和文誌に関わる編集委員は縮小していく方向で検討してもいいのでは等の意見が出され、今後継続して審議していくこととなった。

B. 学会ホームページについて

2004年に「国際解剖学会」が日本で開催されることに鑑み、今後、英文のコンテンツを充実させて行く必要があることが報告された。

3. 企画・渉外報告(河田企画・渉外担当理事・C.(は猪口庶務担当理事より))

A. 第107回総会・全国学術集会について

今回の事前登録者は、835名であったことが報告された。また、アメリカ解剖学会次期会頭R. S. McCuskey教授より、全国学術集会会期中に「日米理事の懇談会」(日米理事の意見交換)を開きたい旨の申し出があったことが報告され、協議の結果、大会最終日(3月31日)午後5時より同会場にて開催すること及び、本学会側は常務理事並びに海外交流委員会委員長が出席することとした。

B. APICA Executive Committee について

第3回APICA会期中に、APICAのExecutive Committeeが開催される予定であり、日本側からは、平野先生と河田企画・渉外理事が出席の予定である。主な議題としては「次回開催担当国の決定」が挙げられている。日本側の対応については河田理事に一任することとされた。

C. 「解剖・組織技術研究会」発足に伴う本学会の対応について

本年2月27日付け山下解剖組織技術士資格審査委員会委員長からの書簡により、「解剖・組織技術研究会」の発足・設立発会式が、3月28日(木)浜松にて開催されることが本学会に伝えられた。同研究会は、懇話会・研究集会としての位置付けではじまり、本年で第4回目の開催となるが、この度、学会とは別の組織形態を設けることに関し、学会としての対応が検討された。

本学会としては、同研究会の“技術者の交流の場”というポジティブな側面は尊重するが、全くの別組織として独立運営されることに関しては、慎重な相談と相互の了解を経ながら、学会本体との関係をより明確にし、相互の連携をはかれるよう運営をして頂く必要があるとする意見が出された。この件に関しては、今後、猪口庶務理事が窓口となり、山下委員長と相談していくこととした。

4. 会計報告(山科会計担当理事)

2001年度会計監査について：

本年3月6日、公認会計士及び本学会監事立会いの下、2001年度の会計及び事業監査が行なわれたことが報告された。会計状況については、年間総収入：57,689,412

円、総支出57,125,568円で、次期への繰越収支差額は563,844円であった。

また、監査当日、公認会計士より下記の指摘があったことが申し添えられた：

- i. 財政状況が厳しいとの理由は分かるが、総会で承認された予算額を減額するのは問題ではないか。
- ii. 会費徴収率を上げるべく、努力する必要がある。
- iii. 別刷代・掲載料の未収分の回収を急ぐべきである。
- iv. 事業収入について、消費税を課せられる危険性がある（各種控除を引いて3千万円を越えた場合、課税対象となる）。

III. 審議事項

1. 第22回人体解剖トレーニングセミナー後援依頼の件

標記の件につき、申入れの通り「後援する」こととした。

2. 東北支部理事補充選挙結果の件

同支部理事 堀口正治教授のご逝去に伴い、理事補充選挙が行なわれた。

選挙管理委員会の開票の結果報告を受け、東北大学の近藤尚武教授（得票数：17票、次点 野坂洋一郎教授：5票）を理事会に推薦することとなった。

3. 2003年度科研費審査委員候補者推薦の件

本件につき本学会では既に、2段階選出選挙により、解剖学一般30名、神経解剖学15名の候補者を選考済みである。しかしながら、日本学術振興会からの資料によると、今回はより多くの候補者を推薦する必要があることが判明し、その対応策について審議がなされた。

本日現在で、正式な推薦依頼数は不明であるが、基本的には、前年度（2002年度）推薦者を優先的に候補に加えることで対応することが確認された。

4. 2002年度（平成14年度）奨励賞選考委員会編成の件

表記の委員会の委員は2期勤めた委員（全委員の半数）が交代する慣例となっている。後継委員の案は理事長が作成し、次回理事回（3月29日）に提示することとなった。

5. 申請学術評議員の件

前回常務理事会で審議された2名の方からは申請を取り下げて頂き、残り14名の申請について審議がなされた。選考方法について、前回常務理事会で話し合われた“投票法”による選出は、事前のアナウンスがなく、唐突に選考方法を変更したとの印象をもたれる可能性があることから、今回は従来通りの口頭審議にて審査を行なうことも考慮に入れることとなった。

また、次回理事会で、次年度以降の「申請学術評議員」の選考方法（投票法も含めて）について意見交換をし、併せて、現行の「学術評議員」制度についても議論を頂くこととされた。

6. 次回理事会議題及び総会・全国学術集会議事次第の確認について

若干の修正がなされた上、確認された。

7. 名誉会員推薦規約について

現行規約の基本的内容は変えないが、規約の運用・解釈規程として有効な具体的な項目を加えることで、意見がまとまった。素案を猪口庶務理事が草案し、次回理事会及び学術評議員会、総会に諮る。